

令和4年度第1回田舎館村総合教育会議 議事録

1 日時 令和4年10月21日（金）
開会：13時00分 閉会：14時30分

2 場所 田舎館村役場2階 庁議室

3 協議事項

- (1) 田舎館小学校の屋根改修について
- (2) いじめの状況について
- (3) その他

4 出席者

(構成員)	田舎館村長	鈴木孝雄
	教育委員会	
	教育長	工藤義明
	教育長職務代理者	佐野ケイ子
	教育委員	福士純子
	教育委員	工藤公彦
	教育委員	須藤雅樹

(構成員以外)

総務課長、教育課長、庶務係長

(傍聴者) なし

5 協議事項

○総務課長

皆様お疲れ様でございます。それでは令和4年度第1回田舎館村総合教育会議を始めてまいりたいと思います。村長よりあいさつをお願いします。

○村長

こんにちは。皆さんとお会いするのが非常に長く感じられました。本日、皆さんが一堂に会し、本当に喜ばしいことです。コロナによって我々の社会内の付き合いが非常に阻害されたことは事実であります。この阻害というのは、人と人との「ふれあい」が無いために、便利性というか、色々そういうもので終わらせてしまう、心と心が非常に結ばれていないという結果が出てきております。それはやはりひとつ、村の教育関係から見直して、是非とも一般の住民の方々と、教育とが密接に結ばれるパターンをこれから築いていって欲しいものです。本日は幸い、全員お揃いですので、教育で子ども達に夢を与え、それを支える大人の世界がさらに進展できますことを切にお祈りしたいなど、斯様に思います。時間内で協議の方をお願い申し上げまして、一言あいさつといたします、以上です。

○総務課長

ありがとうございました。それでは引き続きまして工藤教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○教育長

皆さんこんにちは。教育長の工藤です。まだまだ慣れない時が過ぎていますが、この総合教育会議、何かと、一年前までは全然わかりませんでした。でも、この総合教育会議というのは、子ども達や村民も含めて、村の人達が進むべき、大きな道路を作ってくれるものかなと思っています。私達は子ども達と一緒にその道路をまっすぐ一生懸命走っていくという感じかなと。その様な感じで総合教育会議を捉えています。ですから教育委員の皆さん、そして役場の関係者の皆さんが一緒になって、これからの子ども達の行く道を作っていく、そういう大事な大事な仕事ではないかなと思っています。どうかこれから皆さんと一緒にその道を作り上げていきたいので、よろしくをお願いいたします。

○総務課長

ありがとうございました。それでは資料の次第に従いまして、これから協議事項に入って参りたいと思います。まず始め、1番といたしまして田舎館小学校の屋根改修について、説明を中村課長から願います。

○教育課長

中村です。それでは、まず、田舎館小学校の屋根改修について説明します。資料1をご用意ください。現状から御説明します。

田舎館小学校は、昭和60年に建設され築37年が経過し、以前から改修や小中一貫校を含めた建替えの声が上がっている、老朽化が進む建物です。皆さん写真を見て、現場も何回も見ていますが、屋根は大分、傷んでおります。錆びていて、穴が開いているのかな、と思われる箇所も何か所もありますし、雨樋についても破損したり、体育館についても一度屋根塗装していますが、体育館の屋根も一部のところに剥がれが出てきている、というような状況でございます。

次に課題を説明します。村及び教育委員会としては、小中一貫教育を推進する考えに変わりなく、将来的には浸水想定区域にある現小学校は使用しないで、別の場所に小中一貫校を建設する方針を持っています。しかしながら、小学校で近年エアコンやICT環境を整備する等の設備投資を行っていること、また村の近年の「前田屋敷温泉ほからっと」や中央公民館及び村民体育館などの大型建設事業の実施、更にはこれから予定されている、川部地区のヤード開発に関わる大型事業実施などの財政事情等を考えると、小中一貫校の建設は早急には難しいと判断しています。そこで今後の方針として、村の財政計画の見通しが立つまでは小中一貫校の建設を先送りし、当面の間は現小学校を使用していくことし、特に老朽化が進んでいる屋根改修を行うこととしました。現在来年度の当初予算への計上に向けて費用や工事期間を検討するため設計業務を委託しております。小中一貫校の建設は当面先送りすることになりますが、状況を御理解いただき、村と教育委員会の共通認識を持つため本日の案件としました。以上で田舎館小学校の屋根改修の説明を終わります。

○総務課長

ありがとうございました。それでは田舎館小学校の屋根改修について、皆さんの方から意見の交換を行いたいと思います。

○村長

小学校の屋根については長らく放置したなというような感じがしてなりません。それも小中一貫校があれば修理しないで壊すとかに結びつきますけども、予算が通れば来年から執行されるということになりまして、設計に入っているということです。

一旦屋根をかけるというと、15年はもつのではなかろうかと思えます。そうなれば、小学校をどこかに移設する場合には、ちょっと疑問に思われるところもあります。小中一貫校をやりたいのは山々ですけども、結局のところ、中間に入ってきたのが前田屋敷の温泉、それから村民体育館、公民館、駐車場をまとめて23億円ほどかかったのです。その様なところからいきますと、現在、財政支出は緩やかになってきたのですが、一つの事業をやることには、非常に苦難を有するのが小さい村の課題でありまして、今しばらく、今後かかる経費に積立できる時期を待つしかないというのが現状であろうと。まあ幸いにして小学校の躯体はそんなにくたびれてはいない、屋根だけ改修すれば、まだもつのではなかろうかというような感じがするわけでございます。

現在は、通学はバス運行をしているので、子ども達はそんなに不自由さは感じてはいないのではないかと、でもハザードマップを見ますと、小学校が浸水すると出ているわけで、その対応は今からしておかなきゃならない。要するに大雨が降る場合は、休校させなければならぬし、水が来てしまった時は、生徒を2階に上げてしまわなければならない。そして救助を待つという、これは総務課長の理論ですが、そういう点は今から話をしてあります。

子ども達には何とかして良い学校に入れてやりたい、そして教育の一点を変えていけば更に向上するのではなかろうかという点が様々あって、希望は捨てていない訳ですが、やはり無理した財政の支出、村長が無理やりやれと言って進めるようなことはできませんし、財政と両立しながら剰余金は出してしていかないと。今ところは学校としてはそんなに酷くない、設備も十分で、もうしばらくは考えないといけない問題であろうと思う。今回屋根を改修することになりましたが、新しい屋根はかなり長くもつのではなかろうかと斯様に思います。お金が貯まってくれば、屋根がいくら新しくても移動させますけども、そこができるかどうかこれから、一生懸命財政の努力を期待する次第であります。

いろいろを申し上げましたけれど、皆さんからも一つ意見を出していただいで、改修と小中一貫校の課題というものに、一つ発言をしていただければと、斯様に思います。

○総務課長

ありがとうございました。他に村長の発言を聞いて何かありますでしょうか。

○教育長

今の村長の発言の様に、二つの事業を一緒にやるとかは財政的に大変です。今後、夢を持ちながら、このような事ができるのだよ、そしてこれをやっていくのだよと考えていき

ましょう。小学校の建設を優先すると、川部ヤードの方が財政的にどうなのかと、なっていくしますので、屋根の改修で何年かもつのであれば、そちらで進み、そして災害に対しては万全の計画を持って、例えば水が来た時はすぐ避難する。すぐ避難できない時は上の方に避難する。そしてその救助を待って、その救助に全力を尽くすとか子ども達の安全は必ず守るのだと、そのような立場に立っていけば、屋根の改修を先にやっていっても良いのかなと思っています。教育委員会としては、小中一貫校ができれば一番良いですが、村全体の財政的なことを考えたときには、今村長がお話したようにしていけば良いのかなと。

でも小中一貫教育は目指していきます。他のところを見ていますと、うちの方はこんな風にしたいとか考えています。

私はその様に考えていますので、委員の皆様から意見をお聞き出来たら良いなと思っています。以上です。

○村長

委員の皆さんから一人ずつ、課題に対して自分の考え方があったら出してもらえれば。

○総務課長

そうすれば、福士委員から。

○福士委員

この頃随分と、小泊小中学校が一貫校になったとか、それから南部の方でも一貫校が出来るとかをテレビ等で聞いていると、あれ？うち方はどうするのかなど。大分前から一貫校の話をしていたのになっという事で、遅れをとったのがちょっと悔しい思いではありますが、財政の問題っていうのは、凄く大きいと思うのですよね。だから希望としては、やはり一貫校を目指している訳ですから、建物が今のところ二つでも、その教育内容っていうのかな、それでいかに一貫校を目指してやっていくのかというのが、これから我々の任務かなと思うのです。ですので、そこで一生懸命、皆で協議しながら考えていけば良いのかと思います。安全面の問題とか、そういうのはよく分かりました。以上です。

○須藤委員

今の一貫校の話ですけど、将来的にもう何年後という、その様な事も全然見えていないのですか。そういうのは、村民なりにその姿勢で今臨んでいますよ、とか、そういうのからも、進めていければなと思いますね。あと、水害とかあった時に、雨の降るタイミングとかもあるのですが、明日休みますよ、とか、メールを保護者にいつ時点で決めて、お知らせしていると、何か決まり事があるのであれば教えてもらえればと、以上です。

○教育課長

まず一つ、小中一貫校が何年先というお話については、現段階では明確な時期がやはり申し上げることができません。ですので、村民向けにまだ語れるような段階ではないと、今のところはそう思います。あと、災害の案内というか、対応のメール等については、それはまず基準とかがあっていうのは、特に教育委員会としては定めているものではなくて、現

場とあと教育委員会で持っている情報を基にして、出来るだけ早くは伝えたいのですが、やはりそのタイミングというのは非常に判断に悩む所があります。ですので、その都度都度ですね、適正で的確な時間時期、タイミングを目指していくように努力していくというところがございます。以上です。

○工藤委員

今まで、今ある小学校に水害で避難して下さいとかはあったのですか。あと、この写真を見れば屋根が随分黒くなって、雨漏り等しているのではないのですか。今の所、二つです。

○教育課長

まず1点目の質問ですが、水害に関して、早く帰るとか、明日は危険なので来ないでとの対応は何度かしています。平成25年の雨の被害があった時、あの時は修学旅行出発の直前に水害があって、場所を変えての出発とか、その様にしたりしています。今学校では、一斉メールで保護者の方に連絡出来る、その様な体制がとれていますので、その辺については問題無いのかなと思います。水害というのは、やはりある程度予測できる段階で対応していくのかなと、その様に思います。

雨漏りに関しては、今も雨漏り跡の様なのが何か所か小学校にはあります。校舎と渡り廊下の上については、毎年雪解けのあたりに水が染みてきている状況があるので、そこは今、直近ではすぐ直さないといけないかなと。直接学校の方には目立たないのですが、そんな箇所はあります。また、体育館の明かり取りの窓の所も原因不明の雨漏りなのか、結露なのかというものも確認しております。以上です。

○佐野委員

この総合教育会議は今回で6回目ですね、2回目の時には、この小中一貫校の色々な設計図を見ながら、夢と希望を持ってこの様な学校をこんな小中の流れで等、何となくですが、間もなく実現しそうな感じの雰囲気が出ていましたが、色々と設備とかその様なもの、故障とか、老朽化とかでそちらの方にエネルギーが流れました。財政的には色々と大変なことは承知です。ただし、夢は捨てずにですね。この小中一貫校は、やはりこれからの教育にはとても大事なことであり、是非、これはやらないといけないと思うのです。それが何年か後というのは、それはまだ計画は立てられないでしょうが、今の学校は子ども達の教育の環境が快適になってきたと思います。エアコンも付いたり、それからトイレの洋式化だったり、様々なICTや環境整備により子どもの学習環境がとても良くなったように私は感じます。これは村の財政の方で、色々検討していただいて、子どものために考えた結果かなと思っています。これからも色々と応急的なものが出てくるとは思うのです。どうしても学校が古いものですから、築37年、私が退職したのは築20年の時です。20周年の時でしたので、あれから17年も経っていますのでそこを通る度に、屋根のトタンが取れかかっているものありまして、校舎も大分疲れてきたのかなと思います。ただ、今やらなきゃいけないのが屋根の改修だということなので、屋根も雨漏りしたらどうにもならないですから、そちらの方にもエネルギーを使っていただいて、緊急時、それから災

害時の十分な対応をしていただいで、この先少し見通しを持ちながら前に進んでいけたらと思います。環境はとても良くなったなと思いますので、子ども達がバスで通い、そして、全村で子供達が教室の中で対応できることはすごくいいことです。この先この小中一貫校が是非見通しが立てるところまでければうれしいなと思います。以上です

○総務課長

皆さんありがとうございます。そうすれば私の方から全体的なところで補足をしていきたいと思います。災害の関係ですが、村長の挨拶でもありましたが、始めに佐野委員がお話しになられた、第2回の時の皆さんと協議した時は、ハザードマップが岩木川と平川を中心としたハザードマップで、それに対する危険度で考えていたのですが、今現在、最新版のハザードマップにつきましては、それプラス浅瀬石川の氾濫も加えた、いわゆる千年に一度の雨が降った場合を想定したハザードマップということになってございます。今の田舎館小学校は周りの土地から比べると4mほど高いですが、最新のハザードマップでは50cmから3mの間で浸水をする想定をされております。これは50cmから3mですので非常に幅広いです。では実際、小学校はどのくらい浸水するのか、要は、岩木川、平川、浅瀬石川の全てが氾濫して、その合流地点である小学校はどのくらい水没するのかと調べたら2m30cmでした。この部屋の天井スレスレまで水没するとの事です。もし、その時点で学校に子ども達がいる場合は二階に避難する、であれば浸水は免れるのかなと我々は考えてございます。ですので、垂直避難をして、救助を待つということで教育課の方と話をしております。ただ、いわゆる、田舎館村に直接雨が降って、その様なことも起こるといことは、これはまず無いであろうと。八甲田山や岩木山とか白神山で雨が降って田舎館の小学校までその水が来ることを考えると、2時間とか時間がかかります。この間に子ども達は避難させるということで我々は考えていますので、まず急激に2mを超える水害が発生する事は想定していないかなと。仮になったとしても二階に避難させることを考えているところが今の我々の考えてございます。もう1点、これで困った話は、最新のハザードマップでは中学校も同じなのです。中学校は、皆さんご存じのとおり、野球場と正門までという、落差1メートル以上あります。すなわち普通に水が来たとしても給食センターの方はそれだけ水没するという、そこに当時皆さんといろいろ考えた、小中一貫校だと、今の現状のまま建設というのはどうなのかな、土盛りをしてそういう対策をしなければならないのかな、という意味もあって、少し、財政にはプラス、そういったところのプラスアルファの財源ですね、そこも実は危惧しています。今の中学校を建てた時に2か年で建設しております。恐らく、また小学校を建てるといこと、用地買収をして土盛りをして洪水の対策をしてとなると、3か年ぐらいかかるのか、財政としましては、軽く20億を超える金額があるのかと考えております。ここ最近箱物の建設により、借金は返済が始まったところではありますので、少し時間が欲しいかと。そちらのほうを薄まるのを待ってから、その20億に向かっていくべきという思いがありましたので、この様に、今ある小学校を改修しながら、またその時期を考えたい。ただし、皆さんその時期を諦めるのではなく、小中一貫校をこのような学校にしていきたいということで、福士委員がお話したソフト面ですね、建物じゃないところでの小中一貫校の話をしながら、あるいは災害に強い校舎の在り方を考えながらやっていくことで、教育委員会と一緒に話し合いを

して行けたらいいなと思っております。というのが、私の今の考えです。以上です。
他に何かありましたらお願いします。

○福土委員

小学校中学校がもし水害にあって、子ども達を救助させなきゃいけないとなったら、どこに救助させるのですか。村のどこに救助させたらいいのか、そこら辺まで考えておかないと危ないのではと思いますがいかがでしょう。

○総務課長

今の新しいハザードマップにおいて、まず、浸水しない区域として挙がっているのが道の駅、高樋のあの地区については、平川からも浅瀬石川からも離れているということで、どちらの水害も起こらないとされております。ただし本流の水害はなくても内水洪水レベルの堰の氾濫は多少あるかなと思います。しかし道の駅がまず有力です。村内に限らず広域的な避難といいますと、高田地区にあります農業試験場、黒石の運動公園、そういうところがまず水害が起こらない所と言われておりますので、村内でまとめるのか広域のものを考えるのかっていうところで判断をするということになるかと思っております。

○村長

小学校がある平川、岩木川が直接洪水の起きる一つのパターン。それから中学校は浅瀬石川の上流が大雨の場合、十二川原で土手が壊れた場合、そういう時は、中学校に来るといような感じですが、小学校も中学校も浸水するっていうのは、かなりな大雨でないとないと思います。私は避難となれば中学校に運ぶのが良いのではなかろうかと、私はこう思います。そうなれば、一般の方は公民館か体育館とかに集合させ、また、どんなことが起きるか、今以上に想定できない事が起きるかもしれませんし、その準備というのは万全を期しておかないといけません。ひとつの方向性を示しておかなければならないと思っております。

小中一貫校の話ですが、村では小学校中学校一つずつ、私は色々な設備の投資、暖房冷房、パソコン等を備え、学校のトイレの改修とか、色々な不便さは取り除いたと、斯様に思っています。土台が腐って曲がっているとはまだなっていないのではなかろうかと思っておりますし、私は見るに「あずましい」学校だなと、非常に頑丈にはできている校舎だなと、こう思っています。(小中一貫校は)何年後にやるとは示されない、出来ない訳ではないのですが、今、村は過疎地域に指定されました。そこからお金が借りられます。借りられるが返さなければならぬから、苦勞しない借り方、それが財政の手腕だと私は認めています。村長それは無理だね、と財政係から反応はきますし、できないかなあと感じがする訳でございます。

そういうところからいけば、教育は一応、校舎は云々という話がありますけども、非常に「あずましい」教育が出来ているな、そして子供も青森県で2番目に多い地域だと。この村の教育は、全体の中でも教育がいいなあ、その様な感じを受けているということが非常に微笑ましい限りであります。また、学校教育では先生方の苦勞もあるだろうし、PTA、父兄、一般の方々の教育に対する関心の一致した一つの考え方であろうと、こう思います。

出来れば、何年後というのを示せば一番良いのですが、校舎がダメになってしまえばこれは必ずやらなくてはならないでしょうが、まだそこには少し余裕があるのではなかろうかと思えます。これでも学校が腐食してしまっている、そして小学校が統合した頃であれば、小中一貫校にした方が良いパターンであったろうと思えます。今はバス通学になって、通うに遠いとか、その様な懸念が無い感じなので。ですから我慢することが出来るのではなかろうかという結果が、この様になっているということで、是非とも、小中一貫校にして校長を一人置いて、ALT が小中学校に専門的な教育ができるような形が一番理想だとは思いますが、今しばらく、皆で見守りながら教育は盛り上げていかなければならない。そういう考え方を旺盛に持ちながら、その時をしばらく待つのが現状だと思っております。

理想的な小中一貫校ができると思えます。今よりも良い教育と「あずましき」が出てくるのではなかろうかと思えます。ただ、あれだけの借金があった村の苦労というのは、今となれば忘れていたかと思いますが大変なものでした。まず、村に蓄えが存在しないといけないのではないかと、こう思っています。今、川部のヤードもお金がかかります。でも 37 個の集落と今、西側にはかなりの面積が、70 戸から 80 戸の面積で集落ができてくる。川部はもう 1 地区分が大きくなるような存在で、子どもから何から増えるのではなかろうか、そんなささやかな夢を描いて進んでいます。全部完了すれば、他の地域からみても良い村になるのではなかろうかと、斯様に思っています。北郡、西郡から川部を目指してくる人達はかなりあるのではなかろうかと、こう思っています。黒石でも弘前でも藤崎でも青森でも行ける利便の良さがやはり田舎館村ではなかろうかなど。その田舎館村が立派な教育をしていると、その近くに温泉が散在しているというようなことからいけば、来る人もかなりあると思えます。

○総務課長

ありがとうございます。それでは次の事項に移らせてもらいます。二つ目といたしまして、「いじめの状況について」を教育課長から説明願います。

○教育課長

それでは、次に、村内小中学校のいじめ等の状況について説明します。

資料 2 をご用意ください。

まずは、小学校の状況です。中段付近に「3 いじめについて」という欄がございますが、(1) いじめの認知件数は、1 年生 2 人、2 年生 2 人、3 年生 2 人、4 年生 0 人、5 年生 1 人、6 年生 2 人の合計 9 人の児童がいじめを受けており、指導を受けた児童数は、1 年生 6 人、2 年生 3 人、3 年生 3 人、4 年生 2 人、5 年生 0 人、6 年生 3 人の合計 17 人となっております。

次に (2) いじめの態様については、「冷やか・からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が 7 件、「仲間はずれ、集団による無視」が 1 件、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が 2 件、「ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする」が 1 件、「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」が 2 件です。認知されている案件については、速やかに指導・対応済みで、いじめ対象者については継続して注意深く見守りフォローしております。

なお、重大事態、生命や財産に重大な被害が生じた疑いがある案件の発生はありません。小学校では、子どもアンケートを学期ごとに年3回実施しているほか、保護者アンケートも実施して、いじめの未然防止に努めており、些細なトラブルでもいじめとして認識し、誠意をもって対応・解決していくことや、良くない行動には根気強く繰り返し指導しております。また、校内のいじめ対策委員会や職員会議等で教職員間の情報共有も図っており、早期発見、早期解決とフォローアップにも努めております。

この報告書には、いじめのほかに、上段に「1 暴力行為について」の生徒間暴力2件、「2 その他の問題行動について」の授業妨害・抜け出し5件を起こした児童がおりますが、児童への指導、保護者への報告など対応済みです。

なお、下段の方に「4 長期欠席者について」の記載がありますが、30日以上長期欠席児童は6年生に1名おります。内容としては、ゲーム依存によるもので病院の受診なども行っておりますが、なかなか解決には至っておりません。今後も保護者と連絡を取り合って登校刺激を続けていきたいと思っております。

次に、中学校の状況です。中段付近の「3 いじめについて」をご覧ください。

(1) いじめの認知件数は、1年生4人、2年生3人、3年生0人の合計7人の生徒がいじめを受けており、指導を受けた生徒数は、1年生8人、2年生2人、3年生0人の合計10人となっております。

次に(2) いじめの態様については、「冷やかす・からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が4件、「仲間はずれ、集団による無視」が2件、「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」が1件、「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされる」が1件です。こちらも小学校同様、認知されている案件については、速やかに指導・対応済みで、いじめ対象者については継続して注意深く見守りフォローしております。

なお、重大事態、生命や財産に重大な被害が生じた疑いがある案件の発生はありません。

中学校でも、生徒向けアンケートを学期ごとに年3回実施しているほか、保護者アンケートも実施していじめの未然防止に努めており、些細なトラブルでもいじめとして認識し、誠意をもって対応・解決していくことや、良くない行動には根気強く繰り返し指導しております。また、校内のいじめ・不登校対策委員会や職員会議等で教職員間の情報共有も図っており、早期発見、早期解決とフォローアップにも努めております。

中学校では上段に記載されている「1 暴力行為について」及び「2 その他の問題行動について」は報告されておられません。

なお、下段の「4 長期欠席者について」のうち、30日以上長期欠席生徒は2年生に1人、3年生に3人おりますが、内容としては、生活リズムの乱れによる登校意欲の減退や離婚などによる家庭環境の変化、携帯電話やゲーム依存によるもので、こちらも小学校と同様になかなか解決には至っておりません。引き続き保護者と連絡を取りながら、関係機関とも連携して粘り強く対応して登校を促していきたいと思っております。

以上でいじめ等の状況報告を終わります。

○総務課長

ありがとうございました。今のいじめの関係について何か、意見ありましたらお願いしま

す。

○佐野委員

教育委員会で学校訪問をしています。学校側の説明を聞いて、そして授業を参観するのですが、印象として非常に子ども達の関係は良いなと思います。先生との関係もすごく良いといいたいでしょうか、田舎館の子ども達は、素直もそうだし、良い子が多いですね。大きい市などがあるとそこに出て行く子ども多ければ、それにより影響を受けることがあると思うのですが、その様な、よそからの悪い影響は受けずに、素直に穏やかに暮らしているような印象を受けます。授業に向かっている姿勢も危惧するようなこともほとんどなくて非常に良いなと思っています。いじめのこの調査も出ていますけど実に人数が少ない。相対的に人数がとても少ない。人数少ないから良いかということそういうわけでもないのですがやっぱり中身ですね、このいじめというのは。何かみんな深刻だと子どもにとっても影響がありますから、中身で見ていっています。このいじめの対応についてっていうことを3番の(2)のところ、金品をたかられる、携帯電話で誹謗中傷など右側にいくほど深刻になっていく、こちらの方の数も非常に少ないので、良いことではあるのですが、やっぱり子ども一人一人の実態は違いますので、例えば左側の冷やかしからかいであっても学校に行けないほどの衝撃を受ける子どもというのはありますからこの数は数で捉えながらその一人一人の深刻さを、きちんと学校で把握しながら指導していかないと。何よりもやはり、私も学校に長くいたのですが、「気づき」だと思います、先生がそれに気づく、それから子ども同士の関係の中で子ども気づく、それから保護者が気づく、その「気づき」があれば、問題の解決にそう時間はかからない。子どもが小さいときに慣らしておく、大きい問題に発展するには時間かかりますから、先生方の目にも止まると、早く対応が出来ること子どもが穏やかに学校に通える。学校に行くのが楽しいとか友達と一緒に遊ぶ、勉強したりするのは楽しいという学校にしないとけませんから、数にも注目しながらですけど、一人一人の実態というのもよく捉えて少しでも、苦しむ子どもを作らないようにしていかなきゃいけないと感じます。でも相対的に数が少ないのでちょっと安堵しています。

○総務課長

ありがとうございました他にいじめの関係で何かございますか。

○村長

(いじめの) 子どもの、パソコンや携帯電話でって、これは良くないな。子どものやり方ではないな。いや、子ども同士だから、叩いたり叩かれたり、それでも叩かれても学校に行っていた時代。昔は来ない人というのはいなかったな。

○総務課長

はい、いじめについては以上でよろしいでしょうか。こちらで用意した協議事項としましては以上ですが、最後にその他といたしまして、皆さんせっかくお集りですので、皆さんの方からこの場で意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、ございますか。

○教育課長

情報提供です。まず1点目ですが田舎館村イルミネーション事業「ヒカリノアゼミチ」を今年もやっております。中央公民館で10月11日から12月25日まで、10月は6時から9時まで11月からは5時から9時までイルミネーションを点灯しています。昨年よりもグレードアップしておりますので、是非皆さん見学に来ていただければなど、あとご家族やお知り合いにも宣伝してもらえればなと思います。よろしくお祈りします、2点目11月28日に、小中合同研修会があります。これは村の子供達への効果的な指導について、理解を深めるための先生方の合同研修会で、最近ではコロナで来賓の皆さんの出席はなかったのですが、先日校長会の中で、今年はその合同研修会には来賓出席をお願いしようと思っております、と言っていました。村長もです。時期的にちょっと村長は難しいのかなと、例年だと副村長が出席したりしていますが、村長と教育委員の皆さんにご案内がいくと思っておりますので、日程調整ができればせつかくの機会ですので御出席ください。先ほど小中一貫校の話など協議しましたが、田舎館村はこの様に小学校と中学校が一校一校なので、合同で研修したりというような小中一貫教育への前段階の取り組みを積極的にやっておりますので、是非皆さんも参加してもらえればなと思います。私からは以上です。

○総務課長

他にありませんでしょうか。なければ終わりにしたいと思いますがよろしいでしょうか。それでは以上をもちまして、令和4年度第1回田舎館村総合教育会議を終わりたいと思います。皆さん大変ご苦労様でした。